

ISSN 2435-0532

尚絅子育て研究センター

児やらい

koyarai vol.17 2020

Child-rearing to generate mutual recognition
Child Studies Center at Shokei

第17巻 2020年



は　じ　め　に

2020年度は、コロナ不安からはじまり、九州豪雨災害にも遭遇するなど、命を守る医療、保育・教育現場等に従事する専門職の皆様には、常に責任を一身に背負いながら緊張と不安の中でも笑顔を絶やさずに子どもたちや保護者に安心感を届けていらっしゃることと思います。本当にありがとうございます。そして、保育や行事に関して細心の注意を払いながらも、やはり子どもたちの育ちを大切にしながら、これだけはこだわりたいという内容を吟味・工夫して実施されているのだと思います。これは、現場の皆さんのが知恵と心を寄せ合うことによって成しえたものです。こんな時だからこそ、改めて子どもにとって何が一番大切なことなのかを振り返り、保育を見直す機会にしたいものです。

子どもたちの家庭では、新型コロナウイルスの感染拡大による事業不振、失業、減収など、生活基盤が根底から揺さぶられる状況が広がっています。とくにひとりの働きで生活を支えている世帯では、打撃が大きすぎます。経済的な困難は、やがて心や体の不調にも現れ、子どもの元気の素であるお母さんやお父さんが倒れてしまうという事態も起こりつつあります。これほど、子どもにとって不安なことはありません。

子どもを取り巻く課題は、このように社会の変動によっても大きく影響されています。子どもの24時間の暮らしを見据えた保育や教育を行うためには、子ども家庭支援を柱に据えることも非常に重要です。その中で、子どもの暮らしや遊びといった日常を守るためには、家庭と連携できる専門職の役割が何より不可欠です。

人は、人ととの間で育つ。だから人間となっていくのです。どんな世の中にあっても、私たち大人が力を合わせて人間らしく生き、育てるにこだわり続けるならば、きっと未来は拓けると信じています。そのためには、子どもと対話しながら子ども同士の仲間関係を築き、心の中に拠り所となるものを育てていきたいのです。そして、彼ら彼女らが自らを発揮できる環境をみなで協力しながら創造していきたいです。

その手掛かりの一つとして、『児やらい』17巻(1)を刊行いたします。今回は、論文、実践報告、公開シンポジウム講演・対談記録、乳児保育研究会報告など、幅広く掲載しています。ぜひ、手に取って、普段かかわっている子どもたちの顔を思い浮かべながら読んでいただけすると幸いです。どんな時も、未来の希望である「子ども」を真ん中に、多くの皆様方と協力・連携していくと願うばかりです。

2020年10月
尚絅子育て研究センター
センター長 増淵 千保美

目 次

はじめに

I. 論文

1 保育の音表現における自由の諸相とその基層	3
	曾田 裕司
2 幼児教育における学びと心の育ちについての考察	15
	栗川 直子
3 「育てる」という視点から見た早期離職予防の課題	29
－職場環境の改善に関する5つの要素と若手保育者の育成－	増淵 千保美
4 視覚に障がいを持つ児童・生徒を対象とした	
彫刻領域における「表現」と「鑑賞」に関する研究	45
～「手でみる造型展」におけるワークショップと	
ギャラリートークの実践からの考察～	坂本 健・本多 由佳梨
5 幼児の手作り楽器の製作について	61
－音楽表現と造形表現という視点から－	森 みゆき・坂本 健

II. 実践報告

1 5歳児の保育の歩み	81
	平田 洋介

III. 公開シンポジウム講演録

1 子どもの育ちを丁寧にみつめる	95
－多面的な子ども理解に向けて－	川田 学
2 公開シンポジウムシンポジスト対談	118

IV 事業報告

1 令和元年度 尚絅子育て研究センター事業報告	135
2 令和元年度「乳児保育研究会」報告	141

V 尚絅子育て研究センター事業計画

1 令和2年度 尚絅子育て研究センター事業計画	167
-------------------------	-----

執筆規定	168
------	-----

編集後記	169
------	-----